

# CLC からしだね書店便り



3 2022  
March

CLC からしだね書店では…

- 1 キリスト教書が中心ですが、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もたくさん揃えたいと思います。
- 2 お洒落 でかわいい雑貨や小物もあります。
- 3 ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- 4 コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- 5 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、お好きな本を手にとってお読みください。
- 6 古書のコーナー始めました。ほりだしものあります。
- 7 読書会や著者を招いての講演会など、人と人との出会い、つながる「対話」の場を提供します。

## 幸いなるかな平和ならしむる者

社会福祉法人ミツシヨンからしだね 理事長 坂岡 隆司

まさかと思うことが現実になってしまいました。ロシアによるウクライナへの侵攻です。無差別攻撃で無辜の市民が次々に犠牲になっています。原発施設攻撃という、ぞつとするようなニュースまで飛び込んできました。

プーチン大統領が、どんな大義名分を掲げて正当化しようが、他国を力でねじ伏せて我がものにしようとする侵略行為であり、絶対に許すことはできません。

からしだね館ではいま、階段室の窓一面に、爆撃を受けているウクライナの人々と、戦争反対を唱えてプーチンに抵抗しているロシアの多くの市民たちへの応援メッセージを掲げています。他にも出来ることは何でもやろうと思っています。それは、私たちが次の三つの立場に立っているからです。

第三に、何よりも主イエスのみことばに立つ者として、です。私たちの働きの根拠はまさにそれですから。

先日の夕刊で、ジャーナリストの青木理氏がこんなことを言っていました。

「大阪で維新の会を立ち上げた元大阪府知事はさらに悲惨です。彼はSNSにこう書きました。『国内でウクライナの国旗を掲げて集まってもクソの役にも立たない』と。なんと貧しく愚かしい発想か。現に見てください。ベルリンで、ロンドンで、パリで、そしてロシア各地で数千、数万の人びとが街頭に立ち、あるいはネットで必死に声を発する姿を。こうした真摯な声が積みあがり、各国政府を突き動かし、世界はわずかずつでも進歩を重ねてきたのです。だからこそ専制主義的な為政者は真摯な声を恐れるのです。」

(毎日2022/3/2 夕刊)

街頭でプラカードを掲げて立っている無名のだれかの声も、

第二に、福祉事業に取り組む者の立場です。戦争は、まず一番弱い人たちから踏み倒していきます。平和という前提があつてこそ福祉は機能するのであり、福祉に関わる私たちの仕事は、平和を守っていくこと、戦争に「ノー」と言うことから始まります。平和こそ最大の福祉。黙っていることはできません。

第二に、書店としての立場からです。侵略者や独裁者は、武器を持たない人たちが、ペンを力にして自由を言う世界を嫌います。いろいろな本を読んで、いろいろな人の意見や考え、気持ちに触れることで、世界は自分中心に回っているのではないことに気づき、武器ではなく対話によって、ともにより良い世界を作っていく道がある。書店はそのことを示し続ける大切な社会の拠点です。

京都の片隅でウクライナ国旗を掲げる私たちの声も、果たしてどこまで届くのか、それはまったくわかりません。ある人達からみれば、なんの役にも立たないことに見えるかもしれません。それでも、私たちは平和の君、イエスに従う者として、声を上げ続けます。

幸福なるかな 平和ならしむる者 その人は神の子と  
となえられん。(マタイ5章9節)

有名な「山上の垂訓」で、イエスはこう宣言されました。山上の垂訓は、原語(ギリシャ語)では、「幸いである」という祝福の宣言から始まっているそうです。それで文語訳で書いてみました。幸いなるかなー。この宣言には、どこかイエスの決意のようなものさえ感じます。「平和ならしむる」は、いくつもある選択肢のひとつではなく、それ以外に道はないのだ、というほどの迫力です。

何ができるか、どれほどのことができるか、は問題ではありません。

一ミリほどのささやかなことであっても、イエスの決意に応えようとするとき、それは「平和ならしむる」ことだと思ふのです。

イエス群衆を見て、山にのぼり、座し給へば、弟子たち身許にきたる。

イエス口をひらき、教へて言ひたまふ。

幸福なるかな、心の貧しき者、天国はその人のものなり。

幸福なるかな、悲しむ者、その人は慰められん。

幸福なるかな、柔和なる者、その人は地を嗣がらん。

幸福なるかな、義に飢え渴く者、その人は飽くことを得ん。

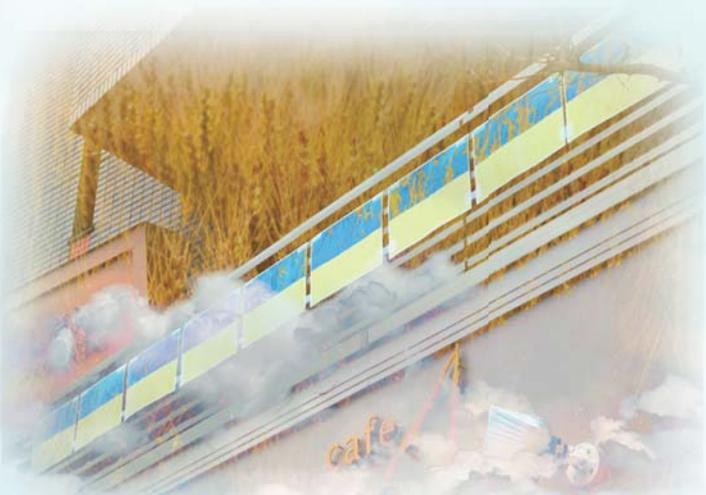
幸福なるかな、憐憫ある者、その人は憐憫を得ん。

幸福なるかな、心の清き者、その人は神を見ん。

幸福なるかな、平和ならしむる者、その人は神の子となえられん。

幸福なるかな、義のために責められたる者、天国はその人のものなり。

(新約聖書 マタイ5章1〜10節)



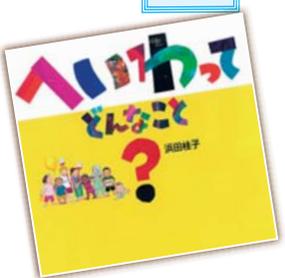
「読書」



## 子どもたちに伝える平和

『へいわって どんなこと?』

作 浜田桂子  
童心社 1500円(税別)



「へいわって どんなこと?」は、絵本作家の浜田桂子さんが、日本、中国、韓国3カ国12人の作家達と一緒に制作プロジェクトを起ち上げ、2011年から2012年の間に、3つの国で刊行された絵本です。

長い歴史を通して文化や貿易で交流のある、とても近い国。けれども戦争・侵略という負の歴史を通して複雑な感情を抱く、最も遠い国。

そんな三つの国の作家たちが、平和について意見や思いを交わし、ともに考えながら、子どもたちのための絵本を作り上げました。

「平和」という言葉は、世界共通の概念であるはずですが、それぞれの立場や体験によって、にわかには複雑で多様な意味を持ち始めます。その複雑さや多様さは、ひとつ間違えば「平和」とは対極の「分断」「争い」をもたらしてしまうのですから、やっかいです。

たとえば韓国の作家は、平和と

は「わるいことをしたらあやまる」ことだと言います。浜田さんは従軍慰安婦問題を意識した言葉だと感じたそうです。

「それからばくだんがふってこないこと」という案を出す、原子爆弾を受けた被害者の立場から戦争をみていると批判されます。「ひとりぼっちにしない」というページを入れようとしたときは、戦争を体験した日本人作家から「ひとりであることを許さず、みんなが同じ色に染まるのが戦争。ひとりぼっちになることが許されるのが平和なんだ」という意見が出たりします。

実際、絵本を作り上げる話し合いの過程で、浜田さんも、理解されていないと感じ、腹が立つことがあったと言います。

しかし、そこを乗り越えて、この美しい絵本は完成したのです。それは、ていねいで忍耐深い対話を重ねていけば、国や世代の違いを超えて、「理解」「思いやり」「友情」を育み、



豊かで創造的なものを生み出すことができるのだという証明でもあります。まさに、この絵本を作っていく過程そのものが、「平和」を築いていくための学びであったのではないのでしょうか。

2019年には、民主主義が危ぶまれつつあった香港で「新訳版」が発行されました。

日本語訳で「いやなことはいやだって、ひとりでもいけんがいえる」の「いけんがいえる」のところは、中国語では「勇気をもっていやだと言う」と、勇気が強調された訳になっているのに対して、香港での「新訳版」では、それはすでにあたりまえの権利として周知されていることなのだから、「いやだと言える」にしたとのことです。

この絵本は、戦争の悲惨さではなく、平和がいかに楽しく豊かで満ち足りたものであるかを語っています。国を超えて、子どもたちが生きていく世界がそうあってほしいという作家たちの願いが込められています。

と同時に、子どもたちに対して「平和」をまもるために、きちんと自分たちの権利を知り、それを主張してよいのだと

※連載「京都のかたすみから見た風景」はおやすみでした。



かたすみから見た風景  
病む人の支援



京都市東部障害者地域生活支援センター・からしだねセンター主任  
武山 世里子（精神保健福祉士・相談支援専門員）

ウクライナの美しい街が、ミサイルや銃声の響く恐ろしい街になってしまいました。少し前まで昼は太陽、夜は月の光の下を歩いていた人たちが、住む家を追われて泣いています。どうかこれ以上、国を町を人をそして人のことを破壊しないで…。そう願いながら、祈りながら毎日を通じています。今月の書店だよりは、平和について、からしだねからのひとこまを届けます。

今日の主人公は、Kくん（40代の男性）です。彼には知的障害があり、知能の発達は3〜4才程度。療育手帳を持っています。シルバーラッセル症候群という障害もあって、低身長で聴覚障害があります。

数年前に父親が他界するまで、大好きな両親と3人で暮らしていました。両親は彼の障害をとてよく理解し、彼の得意なこと、大好きなことをたくさん経験させてくれました。いろんな人と出会う機会に恵まれ、楽しい経験をしてきたので、とても社会的です。髪型を変えた、眼鏡をしている、少し元気がない…。目の前の人の変化にも敏感に気づき、嬉しくなるような一言や優しい思いやりの一言をさりげなく伝えることの名人です。

## エネルギー全開Kくん

Kくんは、いつでもどこでもエネルギー全開です。140cmの小さな体で、どんな寒い冬でも汗びっしょりです。出会う人には、ハグをしたり手を繋いだりします。彼と話をするときには、補聴器を付けた彼の耳に、大きな声ではっきりと言葉を伝えなければいけません。私の一言に彼が10倍のボリュームで返事してくるので、周囲の人にはいつも会話の内容が筒抜けです。

いうことを伝えるように思います。それは、「ごはながたべられる」ことであり「おもいっきりあそべる」ことであり「あさまでぐつすりねむれる」ことであり「だちといっしょにべんきょうだつてできる」ことであり「だいきなうたがうたえる」ことであり「いけんがいえる」ことであり、どんな神様を信じても信じなくても「だれかにおこられたりしない」ことです。

そんなあたりまえの権利が、今、ウクライナの子どもたちから奪われました。

「戦争はいやだ」と「いけん」を言ったロシアの3人の子どもたちは、逮捕されました。

戦争のない日本の子どもたちの置かれている状況は、「いわ」と言えるでしょうか？

絵本は、最後、こうしめくくっています。

へいわって ぼくが うまれて よかったってごんごん。  
きみが うまれて よかったってごんごん。  
そつね きみや ぼは とまどふ ななめごんごん。

（CLCからしだね書店 店長）



## 大好きなのに...

ある日、通所している福祉の事業所から少ししょんぼりして帰ってくる日が続きました。いつもなら、家に帰ってから、「〇ちゃん、△△先生が〜」と大きな声であれやこれやと話をしてくれる彼が、何も言わなくなったのです。母親が尋ねても要領を得ません。事業所に問い合わせたところ、彼がしょんぼりしている理由がわかりました。事業所に通所している人の中には「感覚過敏」の人がいて、彼の大きな声や動作音にしんどくなる人がいるのです。彼自身はそんなことを知る由もなく、「みんな大好き！」とお話をしに行ったり、手をつないだりするのですが、声のボリュームや手をつなぐ行為を「ントロール」することができません。事業所の判断で、彼は一日の大半を、みんなとは別の場所ですべて過ごすことになりました。「お友達に会って、いっぱい話をしよう！」と通所している彼は、その理由がわかりませんが、一人でぼつんと過ごすことになってしまったのです。大好きな友達がいつぱいの事業所でしたが、もう少しKくんが気兼ねなく他者と交流できそうな事業所に移ることになりました。

## 助けてほしいがっただけなのに...

また、ある日、彼のお母さんから「Kがお巡りさんに突き出された！」との連絡が入りました。朝の通勤通学の人がいつぱいのバスに乗って、その日も「お仕事いってきま〜す」と福祉の事業所に行きました。揺れるバスの中は、いつもより混雑し、彼はそれを不安に感じたようです。そしてバスが揺れた時に、彼は隣にいますお兄さんの手を握りました。きつと、不安で手をつないでほしかったのでしょうか。彼なりの SOS でしたが、そのお兄さんはそんな彼の手を振り払い、不審者としてバスの運転手に突き出してしまいました。運行中のバスはすぐに警察に電話し、彼の身柄がバスから警察に移されました。突然のことで、彼は理解ができず、母親が到着した時は、怖くて「ごめんさ〜い」と泣いていたそうです。

## 手をつなぐKくん

どんな時も、誰であっても、彼の行動は同じです。目の前の人をまず信頼し、そして手をつなぎます。目の前の人と楽しくおしゃべりをする時も、助けがほしい時にも、手をつなぎます。良い時も悪い時も自分の手を差し出し、目の前の人とつながろうとします。彼のそんな行動にびっくりしたり、不愉快に感じる人もいます。それは全然おかしなことではありません。

ただ、そんな彼を見ていて思うのです。シンブルに目の前の人と手をつなぐことができる世界は、あなたかな世界なのかな、と自分の思いとは異なるという理由で、またよくわからないという理由で、目の前の人に背を向けたり、無視をしたり、厳しい言葉を浴びせたりするのではなく、とりあえず、手をつなぐ。そんな世界ってどんな感じなのでしょうか。

彼と手をつないで大きな声で話している時、「平和だなあ」と実感します。私のところがどんな状態であっても、手をぎゅっとなつないで、「武山さん大好き〜」と言われたら、時々嬉しくて涙が出そうになるのです。

## ピースメーカーとKくん

平和をつくる人を「ピースメーカー」と言います。愛する人たちを守るため命がけの戦いを行っているウクライナの人たち、戦火のただ中で、それでも生きることをあきらめない人たち、拘束される危険を顧みず、ロシアで戦争反対の声をあげるロシアの人たち、ウクライナからの難民を両手をひろげて受け入れる隣国の人たち…。たくさんピースメーカーがこの絶望の暗闇に光を灯してくれています。

今ウクライナで起こっている悲しい出来事を彼だったらなんて言うのかな…。Kくんは尋ねてみたくありません。施設に入所している彼に（コロナ感染拡大で）直接会うことができないので、お母さんに尋ねてみました。お母さんは、

「三サイルや戦車で攻撃されたウクライナの町を見て、『怖い』っていうかな。そして、何人もの人たちが悲しそうな顔をしているのを見て、Kも悲しい顔をするだろうな。それからそばにいる人の手をつなぐだろうな」と教えてくれました。

ウクライナ侵攻のニュースを見ながら、隣にいる人の手をぎゅっとなつと握るKくん。その姿を想像し、彼もまた「ピースメーカー」なのではないか、そんな風に思いました。

古書部よりお願い

# ガンバレ子どもたち

参考書で  
応援プロジェクト

ご家庭で使わなくなった「学習参考書」「受験参考書」はありませんか？古書として献本いただけますと幸いです。からしだね書店では、家庭の事情により、十分な参考書が買えない子どもたち(小・中高校生)に皆さまからお譲り頂いた参考書を無償で提供し、学習や受験に役立ててもらおうと考えています。ぜひご協力ください。



(例) **学習参考書、問題集、辞書類、文具**  
などなど以下の条件に合うものをお願いします。

①  
内容が  
古くなっていない  
もの

②  
書き込みや  
線引きが無い  
(少ない)もの

③  
本そのものが  
傷んでないもの

**「学習・入試参考書 無料配布コーナー」の設置は  
3月26日(土)～ からしだね書店にて!!**

提供者としてご協力を、そして小・中高の子どもたちのご参加を、  
こころよりお待ちしております。

### 《お知らせ・1》

◆教会や保育園、幼稚園等で、定期刊行物や新刊書、用品等のご注文をある程度まとめて頂きましたら、月1回、無料の定期便でお届けします。

◆お近くにキリスト教書店が無い場合など、ご希望により、新刊書や用品(グッズ)の訪問販売を検討させていただきます。ご相談ください。

◆再版発行のリクエストをお寄せください。絶版した良書で、再版してほしいものがありましたら、お知らせください。ある程度リクエストがまとまりましたら、出版社に情報提供したいと思えます。

### 《お知らせ・3》

◆取次店から本が入荷されるのは、水曜日と金曜日の週2回です。お客様からの注文のタイミングや、取次店にも在庫がない場合など、お取り寄せに1週間以上かかってしまうこともあり、たいへん心苦しく思いますが、少し余裕をもってご注文いただけると助かります。お急ぎの場合はお知らせください。なるべく対処したいと存じます。キリスト教書店が町から消滅しないために、あえて書店に申し込んでくださっている皆様のお気持ちとお祈りに支えられていますことを、心より感謝いたします。

### 《お知らせ・2》

◆からしだねの「おすすめ本エクスポンサー」システム  
あなたのイチ押しの本を、  
店に置かせていただきます

「この本、ぜひ皆さんに読んでほしい」というあなたのおすすめ本。3か月間店頭においてみませんか？残念ながら売れ残ってしまったら、ご自分で買い取ってお客様にプレゼント…という仕組みです。(書店に在庫をためこまず、皆さまの「推薦良書」を広くご紹介いただける。…そうなたらいいなと思っています。)店内配置等については、当店にお任せください。種類によっては、ご希望に沿えない場合もあります。



### 《国際 CLC の ZOOM ミーティングに参加しました。》

先日(3月2日)、CLC 国際本部が主催するオンラインミーティングに参加しました。これは、定期的に行われている CLC の国際交流会のひとつで、今回は十数か国から100名ほどが参加しました。CLC からしだね書店は、Japanとして、昨年秋に続いて2回目の参加でした。チャプレンの奨励の後、数名の証し、報告、賛美があり、それからグループに分かれて交わりと祈りの時をもちました。今回は特に、ウクライナのための祈りが次々と捧げられました。英語で苦戦しましたが、他国の皆さんと知り合うとても良い機会でした。



# 献本について お知らせ

たいへん申し訳ございませんが、  
送料をご負担いただけると  
ありがたいです。  
(受付できないものもありますので  
事前にお知らせください)

## 【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本（多少、書き込み等があっても、大丈夫です）
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし（料理、健康、経済等）にかかわる本
- 5 小説（人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません）
- 6 漫画（人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません）

## 【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勧修寺東出町75 からしだね館

宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX075-574-0025

Mail：clc@karashidane.or.jp

## 【本と一緒にいただきたいもの】

以下の内容を記入したメモ

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィール、献本いただいた本の感想や思い出等を一言。⑥献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきたいと思えます。お名前の掲載は困るという方は、お知らせください。

【日本の売上を含む CLC からしだね書店の収益は、すべて、書店で働く障がい者の工賃になります】

## 【献本感謝】

前田ケイ様、斉藤和子様、<sup>すんでん</sup>寸田優子様、野崎泰子様、兼松哲夫様、竹下巨様・八千代様、南桂様・泉様・希様、木村絹子様、石川了様、浅井省二様、平栗彰様、入江治美様、前波明子様、大岩典代様、荒木功様、森本典子様、吉本浩子様、匿名3名様（順不同）

## 編集後記

■このたびの書店だよりは、今、戦争によって苦しんでいるすべての人たちのことを思いながら、「平和」をテーマに特集してみました。■ロシアはウクライナへの攻撃を、パラリンピックの後ではなく、オリンピックの後と決めていて、中国もそれを了承していたという話もあります。もしそれが事実なら、ロシアも中国も、障がいをもつ人々たちへの理解がその程度であるということになります。本当はそういうところからも、もっと中国政府、ロシア政府の人権感覚の軽さについて、突っ込んでよいのになと思えますが、なんだかそれどころではないくらいの状況が続いています。■聖書には「時が良くてでも悪くても」とあります。どんな時でもたんたんと、キリスト教書店がやるべきこと、やっばいいけないことを見極めながら、目の前のひとつひとつのことを丁寧な心をこめて行いたいと思う毎日です。■どうか、一日も早くこの戦争が終わりますように！！そんな思いを込めて、書店だより3月号をお届けします。【店長】

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね  
就労継続支援A・B型事業所からしだねワークス  
からしだね書店&カフェ・トライアングル

〒607-8216 京都市山科区勧修寺東出町75 からしだね館  
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025  
書店メール clc@karashidane.or.jp

CLCからしだね書店だよりの  
バックナンバーはこちらから

